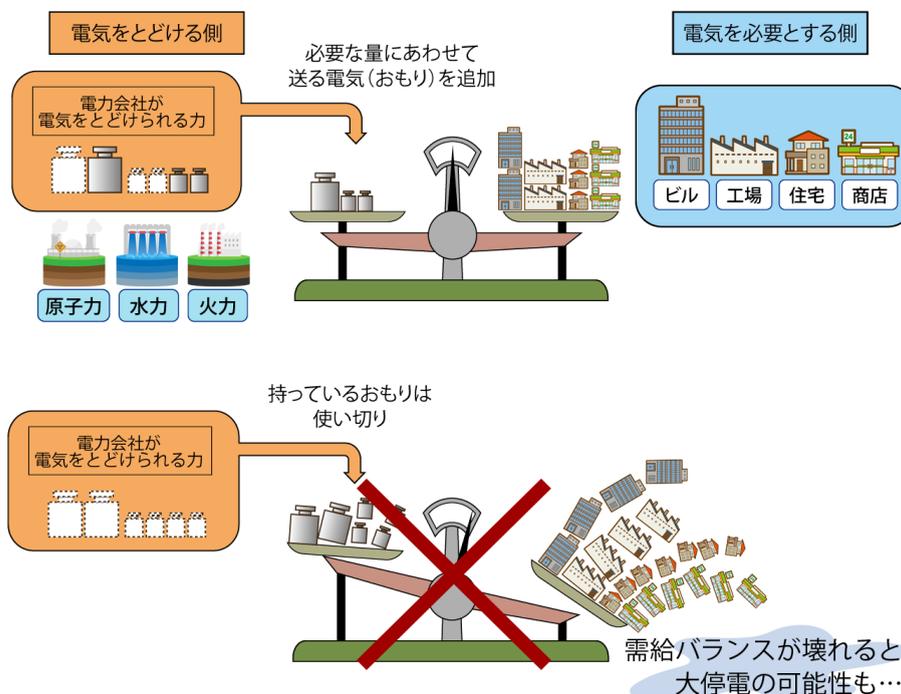


Shizen Connectが実施するDRについて

2050年のカーボンニュートラル、2030年のエネルギーミックス達成に向けては、再生可能エネルギー（再エネ）の最大限の導入・活用が必要不可欠です。経済産業省は、再エネの更なる導入拡大や電力需給の安定化を促す目的で、需給ひっ迫時や再エネ出力制御にあわせてDR制御※1を行うことにより調整力として利用可能な蓄電池等の分散型エネルギーリソースの導入を推進しており、この一環として、蓄電池の新規導入を対象とした補助事業（以下、本事業）を実施しています。

<デマンドレスポンス(DR)とは？>

私たちの生活に欠かせない電気を安定して供給するためには、電気をつくる量（供給）と電気の消費量（需要）が同じ時に同じ量になっている必要があります。これらの量が常に一致していないと、電気の品質（周波数）が乱れてしまい、電気の供給を正常に行うことができなくなってしまいます。デマンドレスポンス(DR)とは、需要家が賢く電力使用量を制御することで、エネルギーの需要と供給のバランスを調整し、電気の安定供給に貢献する仕組みであり、日本全体にとっても、個別の需要家（ご家庭や企業など）にとってもメリットのある取り組みです。

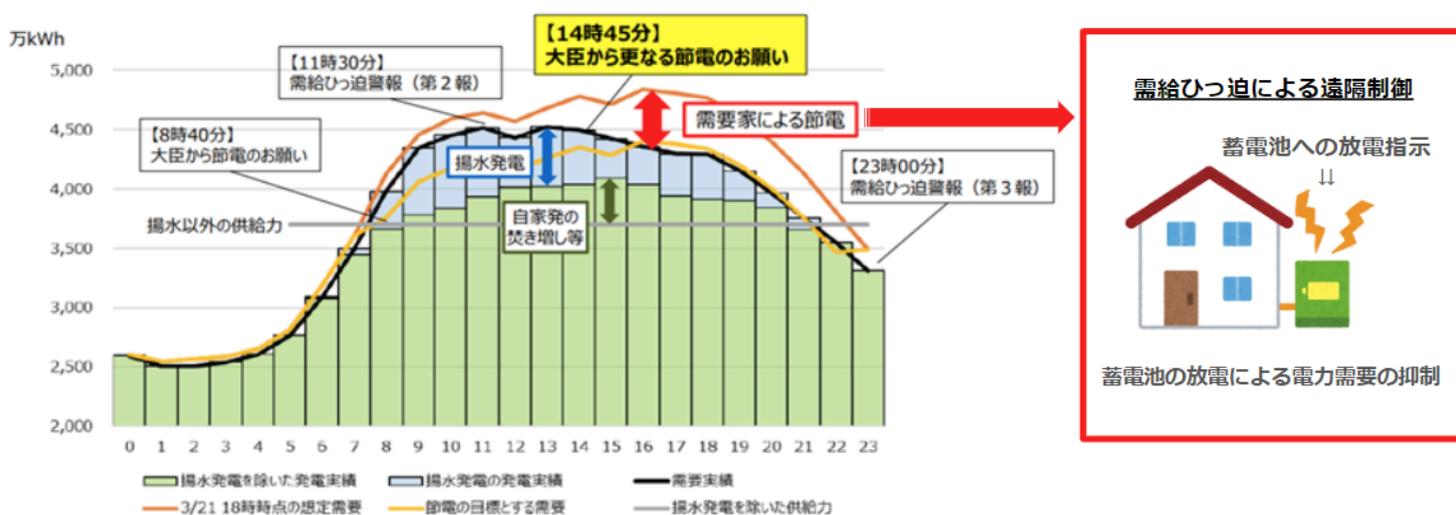


（出典）経済産業省 資源エネルギー庁

※1 DR（デマンドレスポンス）制御：電力の需要と供給のバランスをとる目的で、需要家側の電力使用量を制御することによって電力パターンを変化させること。

<Shizen Connectが実施するDRについて>

「蓄電池アグリゲーター」とは、電力需給ひっ迫時や再エネ出力制御にあわせて、お客様が導入した蓄電池に対してDR制御を行う事業者のことです。(株)Shizen Connectは蓄電池アグリゲーターとして、資源エネルギー庁からの需給ひっ迫注意報又は警報※2が発令された際にお客様の蓄電池を遠隔で制御し、同日の別の時間帯に充電したうえで、需給がひっ迫する時間帯に蓄電池から放電させることでご家庭の電力需要を減らします(下げDR※3)。また逆に、電力需要が小さく再エネ発電所等で発電した電気が余る時間帯には、お客様に通知を行い、ご家庭の電力需要を増やしていただくよう依頼します(上げDR※3)。



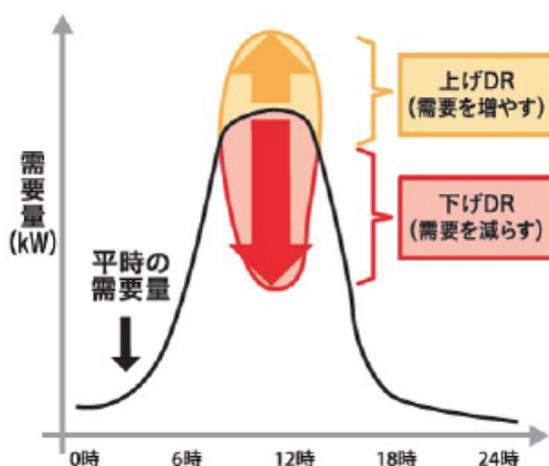
出典: 資源エネルギー庁「東京電力及び東北電力管内における電力需給ひっ迫について」(2022)を当社にて加工

※2 需給ひっ迫注意報・警報:

電力会社の供給予備率が3%を下回る見込みとなった場合、資源エネルギー庁から発令される警報

※3 下げDRと上げDR:

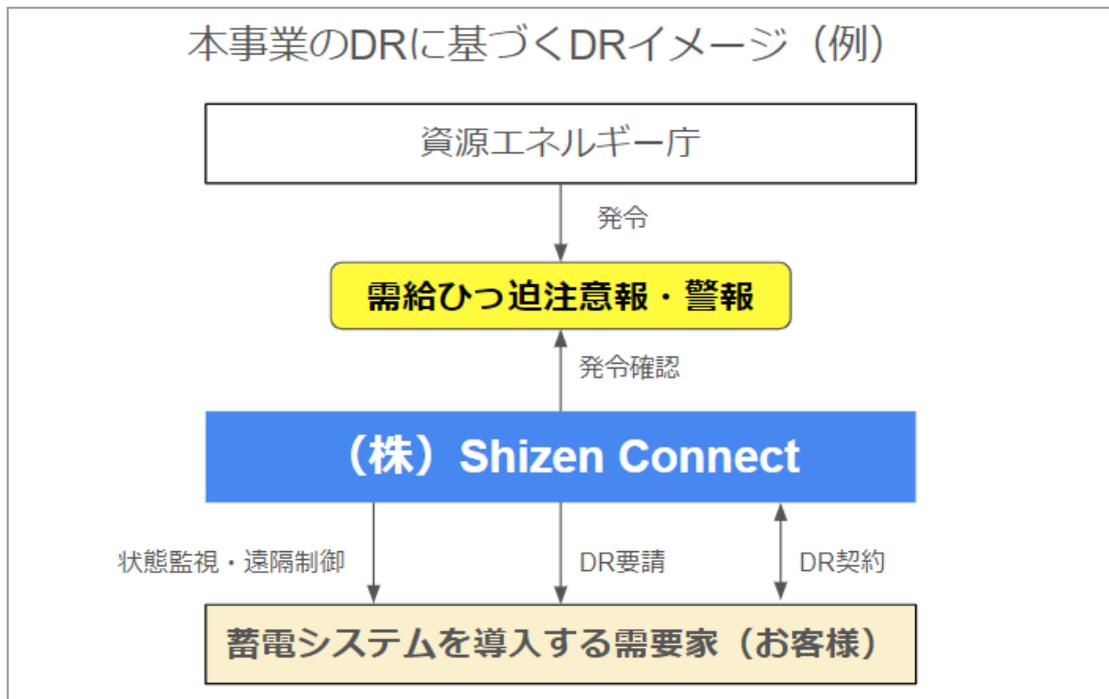
下げDRとは、DRによりある時間帯の電力需要を減らすことで、例えば蓄電池からの放電によってご家庭で使用する電力を賅います。また、上げDRとは、DRによりある時間帯の電力需要を増やすことで、例えば、ご家庭の太陽光発電設備で発電した電気を蓄電池に充電したり、電気湯沸し器でお湯を沸かして貯めたりすることで吸収します。



<DR制御の実施タイミング>

本事業で(株)Shizen ConnectとDR契約を締結した需要家が導入した蓄電池は、DR契約期間である蓄電池の設置から2026年3月31日までの期間、DRに協力することが義務付けられています。以下の①～④の場合に、(株)Shizen Connectはお客様の蓄電池の遠隔制御及びDR要請を実施します。また、国又はSII※3からDR実施状況の報告を求められた場合にはこれに応じて報告を行います。

- ① 需給ひっ迫注意報発令時
- ② 需給ひっ迫警報発令時
- ③ 国からの節電要請時 ※任意で参加
- ④ その他、当社が上げDRが必要と判断した時 ※遠隔制御は行わず、メールでのDR要請のみ



※3 SII:一般社団法人 環境共創イニシアティブ